

透析患者さんのPTAを支援 CRカセット速写が 整形の検査にも活躍



院長 中嶋 文行 先生

一般撮影のCRカセットが流用できる SF Packageを導入

一般撮影に CR を取り入れたということが FLEXAVISION SF Package を導入した一番の理由です。以前使用していたカセットレス式 X 線透視撮影台では現像機のメンテナンスの問題がありました。当院での胃の透視検査が減ったこともあり、一般撮影に CR を入れてからは現像機の液を要する時だけ入れていましたが、現像機をほとんど使わなくなり補充で現像液が消耗するだけになったのです。ですから FLEXAVISION が発売され一般撮影用 CR カセットが流用できるということで、この装置を選択しました。現像機のメンテナンスから解放され現像室だったスペースも有効活用できます。

高 精細画像がPTAを支援 被ばく低減にも期待

当院は、昔、炭鉱病院だったものを、炭鉱の閉山時に診療所を残すという条件のもと私の父が買い取り開業したものです。閉山後の人口の減少に伴い一般外来の患者さんも減り、昔からお付き合いのある透析患者さんが主体になったという歴史があり、透析患者さんの比率が増えています。

FLEXAVISION は一般撮影装置との 2 管球仕様にて設置しています。これらの総検査数は年間 900 件以上で、そのほとんどが撮影で透視は 2 割位です。一般撮影装置は天井懸垂型で、ストレッチャーを用いそのまま撮ることもありますし、患者さんを次々立位で撮るのにも適しています。

一方で処置をするときは FLEXAVISION を使用しており、一番多いのが PTA です。透析患者さんの血管トラブルで PTA をしなくてはいけない症例が平均して月に 1, 2 例、多いときは 3, 4 例あるのですが、その際この装置は透視下で撮影もでき都合が良いのです。特に以前の装置と比較して一番違いを感じるの、画質面です。PTA をする時最近是非常に細いガイドワイヤーを使うのですが、以前の装置に比べそれを見るのに透視画像が見やすくメリットを感じています。このようなことから、PTA をするにあたって非常にあり

がたく利用させてもらっています。

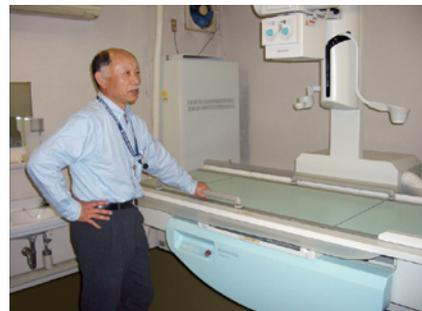
それと私は実感としてはわからないけれども、デジタルにしたのは被ばく線量が減るのではないかという期待もあるのです。PTA だとガイドワイヤーやカテーテルを操作するのに自分も浴びていますから。

C Rカセット速写が 整形領域での一般撮影にも有用

FLEXAVISION を一般撮影にも使用しています。患者さんが骨折したとか、骨折の疑いがある時に一般撮影を行いますし、場合によっては安静のため入院していただいて経過を見ることもあります。このような整形の検査にて透視下で条件や角度を見て撮影を行うといった使い方の場合、この装置を使用します。透視画像を見ながらカセットがさっと入って行って撮影でき非常にありがたいです。

検 査に応じた 多彩なカセットサイズに対応

撮影時に使用する CR のカセットサイズでは四切が多いです。けれども尿管結石、DIP あるいはそのフォロー時に行う KUB の撮影をすることも、その際は大きな視野が必要となりますので半切サイズが入るのは助かります。消化管の透視検査は少ないものっており、CR カセット撮影時は 2 分割なり 4 分割にて撮影します。撮影台前面のベッドサイドコントローラは、胃の透視時や整形の撮影時、私が検査室に入り「もっと角度を付けて」とか「頭を下げて」など、自分で患者さんを見ながらベッド前面のボタンを操作することができ便利に使っています。



導入を
お考えの先生への
一言

細いガイドワイヤーなど透視画像が見やすくメリットを感じます。透視画像を見ながら CR カセットがさっと入って行って撮影でき、PTA や一般撮影に非常に有用です。